
君には、戻れない

洋明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君には、戻れない

【Nコード】

N9761C

【作者名】

洋明

【あらすじ】

急に大切な人を失った女の子の切ない気持ち。

一年間で大切な日って、何回あるんだろう？

私にとって、今は一回だけだ。

一樹が空に上がっていったから三回目の冬が来た。

今、こうやって一樹のお墓の前で手を合わせていることが、楽しかった日を思い出させてくれる一番のシチュエーションだよ。

あなたが放課後に声を掛けてきてくれたから、一樹っていう存在を
かけがえのないものだって気付かせてくれたよね。

ホントに感謝してるよ。

あなたから告白してきたのに私の方が、好きになった感じになっ
たよね。

みんなは受験のことで、いっぱいいっぱいになっている感じだった
けど、あなたといれる今の時間の方が大切だって思ってた。

あなたは頭が良いから、進学先は決ってたけどね。

私、あなたの奥さんになるから進学なんか関係ないって思ってたよ。

二人で見に来た防波堤からの夜景。。。。

すごいきれいな景色でさ、隣りに一樹がいたから余計に感動しちゃって泣いてしまったよね。

あの時は、困らせてしまつてゴメンね。

あなたと一緒にいた半年間は、おばあさんになるまで大切な思い出にしてるだろうな。

でも、あなたが・・・一樹があとの交差点で・・・ぬくもりをなくしたことは忘れないよ。

でも、忘れられないし、忘れちゃダメだと思う。。。

笑った顔すら、想像もできない、あなたの空っぽになった体は私には一樹だつて理解できなくて、ただ泣くしかなかったよ。

小さな白い箱に入つたあなたの骨を見たけど、それでも亡くなつたなんてわからなかった。

わかりたくなかつたよ。。。

でも、頭では理解してたみたいだね。

あなたより、素敵な人はまだ現われないよ。

あなたの軌跡を見てた私には眩しいくらいの姿残して、急に暗くなつたから、もう明るくならないかもね。。

しばらくは、一樹の背中を胸に抱くことにします。

（後書き）

超短編で、早い読み終わりでしょうが、作品の印象を残すために凝縮しました。

御評価など、御意見など、よろしくお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9761c/>

君には、戻れない

2010年12月14日21時51分発行